

女性の社会への進出が著しく進む中、金城学院大学ではこれからの時代に活躍できる女性を育成する教育方針を、広報活動を通じて学内外に向けて発信するとともに、大学としてのスローガンを掲げました。

大学が考える「強く優しい女性」を育てる教育について、柏木学長にお話を伺いました。

金城学院大学

柏木 哲夫 学長

1965年大阪大学医学部卒業。同大学精神神経科に3年間勤務し、心身医学の臨床と研究に従事。その後3年間、ワシントン大学に留学し、アメリカ精神医学の研修を積む。1972年帰国し、淀川キリスト教病院に精神神経科を開設。同時にターミナル(末期)ケア実践のためのチームを結成。その後、同病院にて内科医としての研修を受け、1984年にホスピス開設。副院長、ホスピス長を経て、1993年大阪大学人間科学部教授就任。2003年金城学院大学人間科学部教授、2004年金城学院大学学長に就任。1994年日米医学功労賞、1998年朝日社会福祉賞、2004年保健文化賞受賞。



「強く、優しく。」の教育を実践し、 新たな時代に即応した女性を 育てていきます。

これからの社会で活躍する 女性に必要な 「強さ」と「優しさ」とは

金城学院大学は、新しい教育の指針として「強く、優しく。」という言葉のスローガンに掲げています。このスローガンが出来上がる過程で、どのような女性が今の社会に求められているのか、そして、大学教育を通してどのような女性を社会に送り出さなくてはならないかについて考えてきました。

最近では、女性の時代と言われていることを象徴するかのよう、政治の世界や企業のトップに女性の名前が連なり、さまざまな場面において女性の活躍が目立っています。このような社会をリードする女性には、主体性を持って物事を推し進めることのできるリーダーシップと、男性と差異を認め合いながら協力関係を結ぶことができるパートナーシップが備わっていると思います。

金城学院大学では、これまで推進してきた「優しさ」を養成する教育

を行うと同時に、リーダーシップやパートナーシップを兼ね備えた「強い」女性の養成を実践する必要があると考えています。この「強さ」とは、社会において課題に直面したとき自ら考え対処することのできる「強さ」や、大学で実際に学んだ知識やスキルをしっかりと実社会で生かすことのできる「強さ」、また、自分の意志をしっかりと通すことのできる「強さ」などであり、これらの「強さ」を女性が持つことは現代社会の要請であると考えます。

キリスト教の指導者である内村鑑三氏は、「真理とは中心が一つの円ではなく、中心が二つある楕円である」という言葉を残しています。これは、例えば母親が持つ「優しさ」を一つの中心を持つ円とするとき、そこに「厳しさ」というもう一つの円が加わって楕円となることで、初めて母親としての責任を果たすことができるということの意味しています。

私はこれまでの自分の人生を振り返ると、内村氏の言葉の通り、人が生きていくうえで二つの側面をバランスよく合わせ持つことの意義は、極めて重要であると思うのです。金城学院として、どのような女性を社会に送り出していくかを考えたとき、やはり、二つの中心を持った女性を育てたいというところに行き着きます。「強さ」と「優しさ」の二つの中心をバランスよく持ち、素晴らしい人生を歩むことのできる女性の育成を目指したいと思います。

広告の「真っ白な空間」が意味するもの

金城学院大学の広告を見て驚かれた方が多いと思います。そして、真っ白な空間が何を意味するのかについて、考えられたのではないのでしょうか。私はこの広告の真っ白な空間は非常に重要であると考えています。真っ白な空間には、「強く、優しく。」という言葉を見た人が、それぞれ感じた想いを描くことができ、その想

いを実現することのできる空間を、大学として、これから学生に提供していきたいという願いが込められているのです。

第2弾として学内に掲示している広告や学外広告には、真っ白な空間に大学からのメッセージをつづりました。メッセージには、「強く、優しく。」の教育を実践し、学生を支えていきたいという大学としての意思を示しました。

ある卒業生からは、「私は、この広告を見て大変うれしくなりました。大きな空白、この中にこめられた多くの言葉、多くの愛、そして多くを語らないこの空間を自分の言葉で埋めつくしました。空間に夢を描くことは、とても楽しいものでした。」というお手紙をいただいております。

学生を育てる教育プログラムとキャリアカウンセリング

今後「強く、優しく。」を金城学院大学のスローガンとして認知してもらうためには、このコンセプトに基づいた教育の実践が必要です。

我々は現在、「強さ」と「優しさ」を教育するうえで、どのような方法で実践すべきかのガイドラインの作成について検討しています。12月1日からスタートさせるキャリア相談コーナー（通称：キャリアール）では、学生の就職支援のみならず、女性として生きていくうえでのキャリアに対して、専門のキャリアカウンセラ



いうことが挙げられます。イベントや催しが行われる際には、当然のことですが必ず女性がリーダーを務め、全体をまとめていく役割を担います。通常このような体験は男女共学の大学では難しく、社会に出てからでなければなかなか体験することができません。大学時代にリーダーシップを養い、その経験を実社会で生かすことができるという点で、女子大学は教育の場として大変重要な意義を持つと思います。

金城学院大学の教育の理念は、キリスト教の精神に基づいていることを忘れてはなりません。キリスト教主義であること、そして、教育の対象が女性であること、この二つの特色を生かしながら「強く、優しく。」の教育を進めていきたいと考えています。

大学新広告

強く、優しく。

金城学院大学

第1弾

強く、優しく。

100人いれば、100の夢や目標があって、その実現のために身につけなければいけないことも、それぞれ違います。でも、誰にでも同じように大切なこと。

それは「強さ」と「優しさ」。

「強さ」とは、学んだ知識を社会で活かすことのできる強さ。そして、課題にぶつかったときに自分で考え対処できる強さ。「優しさ」とは、まわりの人の気持ちを理解できる優しさ。そして、時にいたわり、また人に元気を与えられる優しさ。

あなたが何かに迷ったとき、踏み出すのをためらったとき、この2つが、夢や目標に向かい一歩一歩あるくための勇気になり、自分やまわりの人を幸せにする大きな原動力になるでしょう。

「強く、優しく。」

金城学院大学は、キリスト教を基盤とする人格教育と、時代に即応した実務教育を通じ、ひとりひとりの明日を応援していきます。

金城学院大学

第2弾